

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク30問 (語句選択13問、正誤判定17問)、記述16問 計46問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数6題は昨年度と同じだが、設問数は1問減少し46問となった。解答形式は、語句選択問題が3問増加した一方、正誤判定問題が1問、記述問題が2問減少した。また、年代整序問題がなくなったが、出来事の年代・時期を特定させる問題は3題出題された。

出題の特徴や昨年との変更点

大問Iでは、例年見られた考古学分野に関する問題ではなく、中国史書を主題とした原始・古代のテーマ史問題が出題された。大問VIが図版を用いた設問を含む文化史問題であることは例年と変わらないが、今年度は古代～近代を範囲とした絵画のテーマ通史問題であった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	中国史書に記された弥生～古墳時代の「倭」	問2の金印の鈕に関する問題は、難。問3は「魏志」倭人伝について詳細な内容が問われており、やや難。	標準
II	語句選択 正誤判定 記述	加墾禁止令とその時代 《史料》	問5の『続日本紀』に関する問題は、やや難。桓武天皇の事績として著名な徳政論争(805年)を記録した史料が『日本後紀』であることを知っていれば、エを誤文と判断できただろう。	やや易
III	語句選択 正誤判定 記述	中世の貨幣経済発展とその影響	問3は丹後が絹織物の産地と知っていないと正解できず、難。問4は灯炉供御人や大山崎の油座について詳細な知識が要求されており、やや難。	やや難
IV	語句選択 正誤判定 記述	ロバート・フォーチュンの記録からみた幕末	全体的に平易な問題で、早稲田大学の志望者であれば全問正解が望まれる。	易
V	語句選択 正誤判定 記述	ニックネームでよばれた近現代の首相・内閣	問6の「非立憲」は、やや難。問7の「林銑十郎」は正確に記述できただろうか。問11の1955年の出来事を特定する問題も、近い時期の出来事が選択肢に並んでおり、やや難。	やや易
VI	語句選択 正誤判定 記述	日本絵画史における女性表現 《図版》	問1や問3はいずれも作品の造形や構図を正確に頭のなかでイメージしなければならず、やや難。問7の「浅草」も、やや難。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

合格点を確保するには教科書を丹念に学習することが必要である。文学部の特徴として、大問VIでは例年難度の高い文化史が出題されるので、図版の正確な理解を含めた対策が肝要である。また、正誤判定問題や記述問題の分量も多いので、過去問演習への取り組みや、基本的な歴史用語を正確に書く練習も怠らないようにしたい。